

洪水は、大雨や長雨により起こります。災害発生前から備え、被害の軽減に努めましょう。

知っておこう
災害の危険度を表す気象情報と取るべき行動

警報レベル	2	3	4	5
防災気象情報 警戒レベル 相当情報(例)	大雨・洪水注意報 氾濫注意情報	大雨・洪水警報 氾濫警戒情報	土砂災害警報情報 氾濫危険情報	大雨特別警報等 氾濫発生情報
取るべき行動	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認する。	高齢者等は避難開始! 避難に時間を要する人(高齢者の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は危険な場所から避難。 その他の人は、避難の準備。	全員避難! 危険な場所から速やかに避難。避難先までの移動が危険な場合、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難。	発令を待ってはけません! 既に災害が発生、または切迫している状況。 命を守るための最善の行動を取りましょう。

雨の降り方と災害の危険

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間に10~20mm	1時間に20~30mm	1時間に30~50mm	1時間に50~80mm	1時間に80mm以上
要注意				危険
長く続くときは注意が必要。	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。	山崩れがけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすく、多くの災害が発生する。	雨による大規模災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

幾春別川の危険水位

	藤松(区間1)	藤松(区間2)
危険		
▼ 氾濫危険水位	48.50 m	46.70 m
▼ 避難判断水位	47.80 m	46.00 m
要注意		
▼ 氾濫注意水位	47.50 m	45.80 m
▼ 水防団待機水位	46.80 m	45.40 m

※水位の高さは標高の高さで示しています。

※藤松(区間1)は、左岸:萱野から本町、右岸:岡山から美園町までの区間
 ※藤松(区間2)は、左岸:本町から幾春別山手町、右岸:美園町から幾春別錦町までの区間

土砂災害は、大雨や長雨により起こります。早めの避難行動が大切です。

知っておこう
土砂災害の特徴

土石流	急傾斜地の崩壊	地すべり
山腹や川底の石、土砂が雨によって一気に押し流される。	斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震などでゆるみ、突然崩れ落ちる。	斜面の一部や全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと移動する。

事前に備えよう 被害を軽減する日頃の水害対策

住まい周辺のチェック

チェック	対策チェック
	屋根、塀などの点検・補強をする。
	側溝のゴミや土砂を取り、排水しやすくする。
	風で飛ばされそうなものは室内へ撤去する。
	窓ガラスが飛散しないようにフィルムを貼る。



身を守る行動を! 水害が起きたときの流れ

大雨・長雨が続く → **状況を把握**
 ○ ラジオやテレビ、携帯電話、市役所からの情報などで最新の気象情報を入手する。

高齢者等避難 → **高齢者等避難開始** ※避難に時間がかかる者は避難開始
 高齢者等以外は
 ○ 非常持出品や避難所・避難経路の確認をする。
 ○ 市役所からの避難の呼びかけに注意する。

避難指示 → **全員避難開始**
 ○ ガスや電気、火元を消したか確認する。
 ○ 指示に従い速やかに避難を始める。
 ○ 避難は集団で行う。冠水箇所は棒で確認しながら歩き、側溝や水路に注意する。

自宅で待機する場合 ●判断ポイント●
 ○ 外に出ない
 ○ 窓の補強
 ○ 高い所へ避難
 無理に避難するよりも2階など高いところにとどまる方が安全な場合もあります。状況に応じて適切に判断しましょう。



発見したら直ちに通報! 身を守る行動を! 土砂災害の前兆

土石流の前兆	急傾斜地の崩壊の前兆	地すべりの前兆	逃げ方のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ○ 山鳴りがする。 ○ 川が濁り流木が混ざる。 ○ 川の水位が下がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ がけ面から小石が落ち、裂け目ができる。 ○ がけから水がわき出る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地面にひび割れや陥没ができる。 ○ 樹木が傾く。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 流れに対して横に逃げましょう!



地震はいつ起こるかわかりません。起きたときにどう行動するか想定し、日頃から備えましょう。

大地震による死亡原因の多くは家屋の倒壊です。家の耐震化や、壁・塀などの状況を見直し、補強対策を行いましょう。

また、家具の固定状況や配置、家の避難経路を確認し、倒壊の危険がないか見直しましょう。

知っておこう 地震の危険性

揺れの強さ

震度3	震度4	震度5弱	震度5強	震度6弱	震度6強	震度7
大半が揺れに気付く。	大半が揺れに驚く。	物につかまらなそう感じる。	行動に支障が出る。	立っているのが困難。	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	

※最大5弱以上を予想した場合、緊急地震速報(警報)が発表されます。テレビ・ラジオ・携帯電話などで緊急地震速報を見聞きしたら、あわてず身の安全を守ってください。

事前に備えよう 被害を軽減する日頃の地震対策

家屋・室内の安全対策

チェック	対策	チェック	対策
	壁や塀にひび割れなどがないか確認する。 		耐震診断を受け、必要に応じて補強する。
	家具が倒れても安全な配置になっているか見直す。 		出入口は物が倒れても通れるように見直す。
	照明器具などは、複数のチェーンで天井に止めて固定する。 		粘着マットを敷く。裏側をワイヤーなどで壁に固定する。
	冷蔵庫は、裏側をワイヤーなどで固定する。 		タンスや食器棚は、床側や天井側を器具で固定する。

身を守る行動を! 地震発生時の流れ

地震発生

まず身の安全を確保

- 家の中では座ぶとんなどで頭を守り、机やテーブルの下へ。
- 外出時は塀や自動販売機などから離れ、落下物から頭を守る。
- 店、乗り物では係員の指示に従う。人が集まる場所では非常口に駆け寄らない。
- 車の中では徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車する。



揺れがおさまったら

落ち着いて状況を把握

- スリッパをはき、転倒・落下した家具やガラスの破片などに注意する。
- 揺れがおさまってから、素早く火の始末をする。
- 戸や窓をあけて避難路を確保する。
- ラジオやテレビで正確な情報を入手する。



数分~数十分

余震に注意

- 家族や近隣住民の安全を確認する。
- 周囲の人と協力して救助・救出をする。
- 周囲の人と協力して初期消火につとめる。



数日

避難所 自宅待機

状況に応じた行動をする

避難所へ行く必要がある場合

- 非常用持出品の準備を行う。
- ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落とす。



自宅待機

(避難場所に行く必要がない場合)

- 避難行動要支援者などの避難に協力する。
- ガラスの破片や転倒した家具などの片付けを行う。

